

薬物乱用について私が考えたこと

岐阜市立岐北中学校 3年

宮代 侑実

あなたは薬物乱用を知っていますか。薬物乱用とは、薬物や薬品を本来の医療目的や適切な使用ルールから外れて使用することです。たった一回の使用であっても「乱用」とみなされます。薬物乱用は覚醒剤、大麻、麻薬、危険ドラッグなど法律で禁止されている薬物を使用することだと思われているかもしれませんが、市販薬・処方薬を決められた量を超えて大量に摂取する(オーバードーズ)バドも含まれます。

私が今日ここに立って話しているのは、薬物乱用の話をしにきたからではありません。同じ中学生の薬物乱用の動画を見て、私が考えたことを伝えたくてここに立っています。

私はまず、動画を見て薬物乱用は怖いなと思いました。なぜならば、薬物依存症になった人がごく普通の女子中学生だったからです。

そして、タバコにもシンナーにも興味がなかったからです。それなのに、なぜ薬物に手を出したのか。それは大麻が良いものと思わせる歌があったからだそうです。私は大麻を良品だと思う歌を歌うのはなぜだかわかりませんが、一度考えてみました。考えた中で、私は薬物への強い憧れや薬物を使っている人は「カッコいい」「すごい」という考えが原因だと考えました。薬物を使用する人はダメ。ダメなことをする人はすごいと思う人がいる。そういう人たちの大麻はいいという歌を聞いてもらうことで、自己承認欲求や孤独感を満たしているのではないのでしょうか。皆さんはどう考えますか。

動画内の女子中学生は、自分から薬物に手を染めたわけではなく、仲間からの誘いに乗って手を染めてしまいました。誘いを断っていれば、こんなことにはならなかったのですが、やはり断るには勇気がいることを、改めて実感させられました。そして、誘われた人ではなく、誘う側に視点を変えてみると、私はある疑問が浮かんできました。「なぜ薬物依存の人は、薬物を広めたいのか。」ということです。私は、この原因は薬物を使用していることを周りに見せつけ、自己承認欲求を高めて、孤独感を感じにくくしたいからだと思います。薬物乱用を行うと、孤独感を感じにくくなると聞きます。それによつてなおさら「ひとりぼっち」という気持ちは無くなります。

このことから私は、孤独感は薬物乱用を始めるきっかけになると考えました。では、学校生活ではどのように対策できるか考えてみました。まず、私が考えたのは一人にならない環境を作ることです。一人になるとやはり寂しくなり「自分は誰からも必要とされていないのかな。」と考えてしまったり、現状を心配してしまいがちだと考えるからです。私は一人になってしまいそうな子がいたら、進んで声をかけて「一人じゃないよ。」「大丈夫だよ。」と言葉で伝えられるようにしたいです。次に、何か悩みがあった時に相談できる場を作ることが大切です。素直に悩み事を先生や、友達に相談できたら一番いいのですが、実際はそう簡単にいいかないことがあります。それは、仲間や先生と十分な信頼関係ができていなかったり、本人が言いたいけど言えない気持ちになっていたりするからだだと思います。そこで各立場の人が行った方がいいことを考えてみました。まず悩んでいる人は、信頼できる人を見つけておくこと。周りの仲間は、悩んでいそうな人を見つけたら「大丈夫？」と聞いてみたり、「何かあったらいつでも相談してね。」と言ったりして声をかけてあげることが大事だと思います。そしてこれは、仲間と本人だけの問題だけではなく、先生や私たちの問題があると考えます。先生や私たちにも悩んでいる人との接点はあると思うからです。先生や私たちがいつもみている子に少しでも違和感を感じたら、話を聞いてあげるべきですし、日頃からコミュニケーションをとることで、すぐに気づけると思います。

今日私が一番伝えたいことは、「絶対薬物乱用をしないほしい。」ということです。薬物乱用の原因は、孤独感からくる自己承認欲求の高まりだと考えます。薬物で孤独感を紛らわすのではなく、私たちが関わり合って大切な時間を過ごしていけるようにすることが、これからの私たちの課題だと感じました。今回学んだことを岐北中学校に持ち帰って、仲間と共に生活していきます。